

第2回シリア人道支援会合 牧野外務大臣政務官スピーチ

2014年1月15日

- 本会合を主催されたクウェート国首長及びクウェート政府、また本会合開催に向けた国連事務総長及び国連関係機関の努力に敬意を表します。
- 昨年、国際社会は、シリアの化学兵器使用を巡る問題に直面しましたが、廃棄が着実に実施されるよう、日本も可能な限りの協力を行っていく考えです。
- その一方で、暴力の停止や政治対話の促進、劣悪な人道状況の改善は、引き続き喫緊の課題であると考えます。このような問題意識から、日本は、これまで総額約2.8億ドルの対シリア及び周辺国に対する人道支援にコミットしてきました。これには、国際機関やNGOを通じた支援に加えて、保健分野における協力を含めて、国際社会の支援の手が及ばない地域へのクロスボーダー支援も含まれます。
- また、昨年12月には、イラク及びトルコに流出したシリア難民にテント、毛布、スリーピングマット等の無償譲渡を決定し、引渡しを行いました。
- この会合の機会に、日本は、主に難民・国内避難民に対する人道支援として、総額約1.2億ドルの新規支援を準備していることを表明します。その中には、女性・子供に対する支援のほか、保健・衛生、教育、食料分野の支援等が含まれます。
- 日本は、こうした支援を、今月22日に開催予定のジュネーブ2会議を始めとする政治対話のプロセスと並行させ、国際社会の皆様と協力しつつ進めていく決意です。

(了)